

(3) 不良債権処理の進捗状況

当行では、16 年度末の不良債権比率半減目標を達成するとともに、不良債権問題からの脱却を図り、財務体質を抜本的に強化すべく、不良債権のオフバランス化や企業再生、事業再編に積極的に取り組んでまいりました。

14 年 12 月には、取引先企業の再生や事業再編に集中的に取り組むため、既存の融資業務関連各部を集約し、戦略金融部門を設立いたしました。また、同部門に上記各部を支援するスタッフとして、企業再生に不可欠なノウハウや、会計・税務等の専門スキルを有する人材を行内横断的に集めた戦略金融統括部を新設しました。

この戦略金融部門を中心に産業再生機構や整理回収機構等の政府関係機関や外資系金融機関、プロパティマネジメント会社等、外部専門家も活用しつつ企業再生や事業再編に注力しております。具体的には、この約 2 年間で日本リバイバルファンド、日本エンデバーファンド、デイスターファンドと 3 つの企業再生ファンドを立ち上げた他、日本エンデバーファンドに対する企業再生業務を担う S M F G 企業再生債権回収を 15 年 11 月に設立し、様々な手法を用いた企業再生に取り組んでおります。

今年度においては、バランスシートのクリーンアップの総仕上げとして、引き続き不良債権問題の最終処理や企業再生に鋭意取り組んでまいりました結果、16 年度上期は、破綻懸念先以下の債権につきまして企業再建型処理や直接償却、回収等により 9,040 億円のオフバランス化を実施したほか、要管理債権につきましても 16 年 3 月末比 4,677 億円の減少となったことから、16 年 9 月末の金融再生法に基づく不良債権残高は 2 兆 4,844 億円と 16 年 3 月末対比 3,268 億円の削減を実現いたしました。

この結果、不良債権比率は 16 年 3 月末の 5.0%から 16 年 9 月末には 4.4%と低下しており、金融再生プログラムで求められている 14 年 3 月末の 8.9%に対し、16 年度末に半減とする目標を半年前倒しで達成いたしました。

なお、経済合理性、経営責任の明確化、社会的影響を考慮した上で、4 社で 458 億円

の債権放棄を実施しております。

こうした取組に加え、不良債権問題の抜本的解決に向け、将来リスクへの対応力強化として貸倒引当金の一層の積み増しを行ったことなどから、16 年度上期の与信関係費用につきましては 4,558 億円となっております。

また、連結ベースでの一段の財務体質強化に向け、ローン保証業務を営む子会社で引当金の増強を図りました結果、グループ連結での 16 年度上期与信関係費用は、6,128 億円となっております。